

《帰国者自主举行的各种活动

～走访老人护理保健设施～



7月末、11名在中国帰国者支援・交流センター参加交流活動の太極拳愛好者、为表演太極拳而

参观走访了都内某老人护理保健设施。“おはようございます。宜しくお願ひします。”成员们一边嘹亮地打着招呼，一边往设施内走。而此时，设施工作人员也已迎到了门口。工作人员指示帰国者到休息室稍作休息，可是大家都显得有点儿坐立不安。离正式表演还有三十分钟，然而大家都换上了白色对襟衫，并在门厅里开始练习。他们不畏炎热，反复确认着各自的站立位置和角度，就像正式表演那样热心地练习、揣摩各自的表演内容。大家那种认真严谨的态度，传达出了每一个人都渴望展示出最高水平的热忱心声。

此次为老人护理保健设施表演太極拳的契机，源于几个毕业于埼玉县中国帰国者定着促进中心的帰国人员组织了一个同好会，而得知有此同好会的第二代帰国者，因此与其商量：“我所工作的设施要举行夏季庙会，能不能在夏季庙会上为大家表演太極拳呢？”，据说这位第二代帰国者的设想是：“设施里的人，恐怕没亲眼看到过太極拳，要是同好会的人能在仲夏祭上表演一番，大家一定会很高兴！”

上午11点。表演正式开始，很多人聚集到了食堂。在设施工作的第二代帰国者担起了主持人兼翻译的角色。11名表演者被一一介绍给设施内的人员。大家首先表演了24



《帰国者自主活動の紹介

～介護老人保健施設への慰問～

中国帰国者支援・交流センターで交流活動の太極拳に参加している有志11人が、7月末日、太極拳を披露するために都内の介護老人保健施設を訪れました。「おはようございます。宜しくお願ひします。」と大きな声で挨拶して入って行くと、施設の方が入口まで出迎えてくださいました。案内されて控え室で休憩をとっていましたが、なんだか落ち着かない様子で本番30分前にもかかわらず、揃いの白い衣装に着替え、エントランスで練習を始めました。暑い中、何度も立ち位置の確認をし、披露する演目を本番さながらに熱心に練習していました。そんな皆さんを見ていると、やるからにはちゃんとしたものを見せたいという熱意がひしひしと伝わってきました。

今回、この太極拳を披露したのは、埼玉県中国帰国者定着促進センターの入所生だった方々が退所後も会を作って集まっていて、それを知った帰国者二世の方が、会のメンバーに「今度、自分の働いている施設で夏祭りがあるので、そこで太極拳を披露してもらえませんか？」と相談を持ちかけたことがきっかけでした。二世の方は「施設にいる方は、太極拳を生で見たことがないかもしれないので、夏祭りで太極拳を披露してもらえれば喜んでくれるのでは！」と、考えたそうです。

午前11時。いよいよ本番で、食堂にはたくさんの方が集まっていました。施設で働いている二世の方が司会兼通訳をしながら11名を施設の方々に紹介し、まず全員で24式太極拳、48式太極拳、太極扇を披露しました。太極扇の扇の開く時の音に皆かなり

式、48式太极拳以及太极扇。太极扇被甩开时发出的那“唰”的一声，令观看表演的人们大吃一惊。接着，五名表演者表演了42式太极剑，最后，中心的太极拳老师还为大家表演了中华武术功夫扇和武当剑。每个人都把各自平时的练习成果发挥得淋漓尽致，所以表演完毕后各个人脸上都流露出了满足的神情。同时设施方面的人员也跟着太极拳的音乐鼓掌，或是学着表演者的样子摆出各种姿势，有的人甚至拿出手机来拍照留念。当在设施工作的第二代归国者问大家“亲眼看到打太极拳，大家感觉怎么样呢？”时，得到的回答是“太令人激动了！”“太有意思了，谢谢！”，并伴随着热烈的掌声。11名表演者也回应大家，“虽然很紧张但是很愉快，谢谢！”在回家的路上，问及顺利结束访问活动的11名表演者有什么感想时，一名男性回答，“能让大家看到太极拳表演我感到非常高兴。以后要是有机会，还想为大家表演。”；另外，一位女性说，“我刚开始打太极拳，打得还不好。以后我要发奋练拳，希望还有机会为大家表演。”迄今为止，大家只不过是为了维护各自的健康而努力打拳，可是此次通过为地区居民表演，让大家亲眼看到了太极拳，也愉悦了大家的心情，相信这一切为同好会成员今后的活动指出了积极的方向，使大家有了奋斗的目标。

11名同好会成员：均为热心于太极拳、在中国归国者支援・交流中心参加交流活动的太极拳爱好者。大家除去在中心练习以外，每周还自行在公园等地练习一次。大家相处和睦，据说樱花盛开时节还会在练习结束后，带上各色菜肴去观赏樱花；冬季则开新年会进行庆贺等等，活动开展得异常愉快。(K)

驚おどろいている様子でした。次に、5人が42式剣つぎを披露し、最後にセンターの太極拳講師の方々が中華武術功夫扇、武当剣を披露しました。日頃の練習の成果を十二分に発揮し、達成感にあふれた顔が印象的でした。施設の方々も太極拳の音楽に合わせて手拍子びょうしをしたり、一緒に動作を真似してみたり、中には携帯電話で写真を撮ったりとさまざまな反応がみられました。二世の方が「太極拳を生で見てどうでしたか？」と聞くと「感動しました！」「楽しかったです。ありがとうございました。」という言葉と、大きな拍手をいただきました。それを聞いて11人も、「緊張しましたが楽しかったです。ありがとうございました。」と応えていました。帰り道、無事慰問を終えた11人に感想を聞くと、ある男性は「太極拳を見てもらえて本当に嬉しかった。またこのような機会があったらやってみたい。」、また、ある女性は「まだ、始めたばかりで上手くはないけれど、これからもっと練習してまたやってみたい。」という答えが返ってきました。今までは、自分自身の健康維持の為に励んできた太極拳でしたが、今回地域の方々に披露し、見てくださった皆さんに喜んでもらえたり、楽しんでもらったことで、今後の活動への前向きな気持ちや向上心へとつながっていくのではないかと思います。

有志11名の紹介：中国帰国者支援・交流センターで太極拳の活動に参加しているメンバーで、センター以外でも自主的に週一回公園で練習を積んでいるとても熱心なメンバーです。皆さんとても仲が良く、桜の季節には練習後料理を持ち寄ってお花見をしたり、冬は新年会をして楽しんでいるそうです。(K)